

5

山

山

山

山

E-1842

0075

12.182

11

北滿洲ニ於ケル忽布栽培状況

滿洲ニ於ケル忽布栽培ノ起源ハ大正七年滿鐵公主嶺農事試驗場ニ於テ
 北海道ヨリ忽布苗ヲ移植シタルヲ嚆矢トシ翌年原岳分場ニ於テモ之
 ヲ試作セリ。現在南滿ニ於テハ安奉沿線一帶ノ風土ニ於テ栽培ニ適スト謂
 ハルルモ未タ專業的栽培ヲナスモノアルヲ聞カス。北滿ニ於テハ
 革命ニヨリ南滿ヨリ避難シ來レル露人中自家用ハパンノ製鏡原料トシ
 テ栽培シ、ガーツ種ノ支那産線ニ栽培セルモノアリ、更ニ西比利亞出
 兵當時我軍部ノ自生藥草研究ノ副産物トシテハシホタ山脈中ニ於ケ
 ル野生忽布ノ發見ニヨリ北滿ニ於テモ自然的要件ニ於テ之ヲ栽培ノ可
 能性アルヲ裏書セラレ、亞テ二三邦人ノ各地ニ於ケル試作研究ニヨリ特
 ニ其自然的要件ニ於テ東支那部總一帯カ其栽培ニ好適ナルコト確メラ

BII

海外經濟事情
 昭和6年2月9日
 第4年第6號

12.182
 附錄

E.4.3.1.5-13
 E.4.9.3.2

普通第一二〇四號
 昭和五年十二月五日

在 哈 爾 濱
 總領事 八 木 元

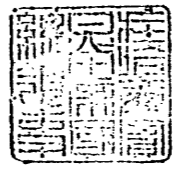
外務大臣身付 幣 原 喜 重 郎 殿

北滿洲ニ於ケル忽布栽培状況ニ關スル件

本件ニ關シ御參考迄別紙ノ通報台ス

本信寫送附先
 在上海商務參事官

別紙添付



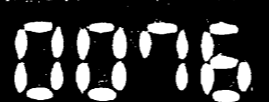
通商局

第二課

昭和五年十二月六日

若子於九夜夜夜保
 第壹部

E-1842



レ且専業費ノ大部分ヲ占ムル支給購入費モ低廉ニシテ弊銀モ安ク採算見込分ナリシヲ以テ本邦人濱口由次郎ハ酒釀ノ後援ニヨリ熊岳城農事試験場ヨリ稲苗ヲ取寄セ、寛部線一面坂ニ於テ始メテ正規試作ヲナス、次イテ昭和三年度ヨリ企業的栽培ヲ開始セリ。之ト殆ト相前後シテ同年哈爾濱郊外ニ、昭和四年積道河子ニ何レモ邦人ニヨリ忽布田ノ開設ヲ見ルニ至リ、今ヤ本専業勃興ノ機運ニアルモノ如シ。

惟フニ本邦ニ於ケル忽布ノ需要ハ年額五百萬圓内外ト註セラルルモ、其性狀風土ニ對シ極テ敏感ニシテ、本邦内地ハ日花期ニ當リ強風及濕氣多ク栽培ニ適セス現下北海道、長野縣等ニ於テ具種ノ交配ニヨリ氣候風土ニ適スル新種ノ発見ニカメツアルモ未タ試作時代ヲ感セス大半歐州大陸及米國ヨリノ輸入ニ俟タズニ得サル状態ニ在リト謂ハル。然ル

BII

ニ前通ノ如ク北滿ニ於テハ新業經營上ノ必要條件略示具ハリ、既に前記一面坡産忽布ハ同地及哈爾濱麥酒會社へ供給サレツアリ。今後数年ヲ出テスシテ本邦内地ハ禁ヨリ廣ク販賣各市場へ移出シ得ルニ至ルヘキモノト考察セラル。

忽布ノ用途及栽培ノ利潤

忽布カ麥酒釀造用原料トシテ缺クヘカラサルモノナルコトハ廣ク世人ノ知ルトコロナルモ、尙麵麴、菓子製用ニ使セラレ、其下等品ハ沐浴治療上浴槽ニ投入セハ奇效アルモノト稱セラル。而テ之カ栽培ノ利潤程度ヲ考察スルニ、先ツ當地方ニ於ケル主要農作物及忽布ノ一ヘクタールノ當リ収量ヲ見ル要アリ、即チ左ノ通り。

〇一ヘクタールノ當リ収量

BII

林

林

1756

① 穀價ハ當地附近ニ於ケル生産者側ノ手取金ヲ基礎トシ最近數月間ノ地方通貨對金圓平均比價ニヨリ算出ス從テ市場ニ於ケル價ハ其市場ノ位置ニヨリ各一割以上騰貴スルモノト見做スヲ要ス
 ② 公課ハ市村人申並トス
 ③ 忽布收買ハ定植第四年自ノ株ニヨル年花對乾花ノ重量比ハ三

高梁	粟	玉蜀黍	小麥	水稻	陸稻	忽布	亞麻
二〇	四五	二九	五七	六七	四五	八二	一七
八二	八八	五〇	三八	二四	九四	〇〇	〇〇
一六	三四	二二	四一	四七	三四	五八	一二
六二	五八	七〇	九八	七四	七四	九一	八〇
四	一	六	一五	一	一	二四	五二
二〇	三〇	八〇	三〇	五〇	二〇	〇九	二〇
二五	三二	二九	三六	四〇	三二	四二	四一
五%	七%	九%	四%	八%	二%	二%	八%

1746

○北滿重要農作物「ヘクタール」當収支狀態
 更ニ右平均收量ヲ時價ニ換算シ積苗代、管理費等ノ支出額ト對比スルニ左ノ通り(單位金圓)✓

大豆	高粱	粟	玉蜀黍	小麥	水稻	陸稻	忽布	忽布生花
一、二三七	一、二五一	一、二八一	一、六三七	一、二五四	一、九二〇	一、四〇一	二、八〇〇	二、八〇〇
八、一一一	〇、一一一	五、一一一	五、內外	〇、一一一	〇、一一一	〇、一一一	〇、一一一	〇、一一一
二、七六六	四、三八八	三、九八八	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七	七	七	〇	〇	〇	〇	〇	〇

作物名 收入金 支出金 収益金 支出金ニ對スル利率

大豆 三〇、六八 二二、三八 八、三〇 三七、一

176

右表ニ明示セラルル通り一定地域ニ於ケル忽有ノ利潤程度ハ収益ニ於
 テモ利益ニ於テモ各品中第一位ヲ占ム。如野忽有ノ栽培ハ概シテ有利ナ
 ルモ只本品ハ其植物學的性質上栽培後兩三年ハ收穫ヲ期待シ得ラレス、
 投下資金ヲ急速ニ回收シ難キ嫌アリ。然レトモ其栽培ニ當リテハ相當多
 額ノ資金ノ外専門的技術ノ技能ヲ要シ、一般農人ニハ俄クニ本事業ヲ
 企及シ難ク、此點ニ於テ北滿ニ於ケル農業ニ關心ヲ持ツ邦人ニ取リ好適
 ノ企業タルヲ矢ハス。但北滿地方ニ於テハ土地ノ借入事業上困難ナル事
 情アルヲ以テ、今ノトコロ華人ト共營スルカ又ハ華人ノ名義ヲ以テ借地
 スルニ非ラザレハ諸種ノ障害ヲ伴フヲ恐カレス。尙本品栽培及加工法ハ
 概シテ専門的ニ亙リ且機微ノ點アリ、栽培希望者ハ當地滿鐵當局者ヨリ指
 導ヲ受ケ得ル便アルヲ以テ、其詳細ハ之ヲ省略シ、各地栽培ノ概況ヲ記述

BIT 板

177

スルニ止ム。
 哈爾濱忽有農場概況
 本農場ハ本邦人稲葉豐城ト前市政管理局長馬思駘トノ共同經營ニ係
 リ、舊哈爾濱北側ニアリ、北緯四五度四二分東經一二六度四三分ニ位シ、海
 拔一四七米、地勢平坦ニシテ勾配僅々ニ千分ノ一ニ過キス。昭和三年忽有
 園ヲ開設シ、本年度植付面積ハ全農場地域約四百町歩ノ内三十五町歩ヲ
 リ、本場土質ハ植質壤土ニシテ肥養分多ク、氣候冷涼、水質純潔、忽有栽培ニ適シ
 且防風林ニテ固マレ風害ヲ防キ得テ殆ト理想ニ近キモノト謂ハル。本園
 ニ既ニ栽植シタル忽有種苗別ヲ示セハ左ノ通り。

昭和三年 札幌十號 一、二〇〇株
 同 五號 七〇〇株

BIT 板

E-1842

178

昭和四年	札樞四號	計	一〇一	〇〇〇株
	札樞拾號		二五	六〇〇株
	札樞四號		一六	六〇〇株
	札樞五號		一五	六〇〇株
	札樞六號		一五	八〇〇株
	ハツシロ		二七	〇〇〇株
	各園種		一〇一	〇〇〇株
計			五、六〇〇	〇株

從來北滿ノ忽石栽培業者ハ忽石ノ育種的觀念ニ薄ク、在來品ノ栽培ニ甘シタル憶アルモ、不同ニ在リテハ世界各地ノ品種ヲ集メ、不良其純ヲ淘汰シ、地味ニ適スル良種ノ發見ニ苦心ス。

BLI

179

忽布苗ハ毎年五月十日前後種付ケ九月二十日前後取入ラテス。此間ノ施肥料左ノ通り。

早春堆肥灰當リ三百貫
木灰 同 五貫
過燐酸石灰同 三貫

收穫時期ニ於ケル天候ノ適不適ハ収取ニ其品質及ヘルプリンツ有量ニ影響アルヲ以テ、後述ニ生花ヲ摘取スル要アリ。本園ニ於テハ熟練セル常備工ニ行ハシム。收穫セル生花ノ乾燥ハ乾重ヲ要ナル作業ノ一ニシテ、完全ナル乾燥室ヲ設クル要アリ。本園ニ於テハ保温、換氣、採光ニ注意ヲ拂ヒ、水分ノ脱出乾花ノ綠色保持ニ力メ、硫黄燻蒸ニヨリ乾菌ヲ行ヒ、變質ヲ防止ス。冬年度ハ火力乾燥装置ヲ設クル豫定ナリト。生花乾燥ニ

BLI

E-1842

80

ハ種式電刀水機ヲ使用シ、以テ除穢不完全ニヨル變質ヲ防止シ、尙貯蔵ノ爲^{貯蔵式貯蔵室}貯蔵室ヲ設ク、斯クシテ精製セル忽布ハ本邦及浦外各地ノ麥酒製造會社ト連絡ヲ取り見本ヲ送附シ、試取ヲ依頼シ買込ム計画ナリト。

前記ノ如ク忽布ハ性質上積付當初ニ在リテハ兩三年間充分ニ收穫シ終クルコト困難ニシテ當地忽布園ニ於テモ其開設ノ昭和三年度及四年度ハ殆ト收穫無ク、^{昭和五}本年度ハ栽植面積三十五町歩、反當約百ボンドノ收穫ヲ見ルモ個々ハハツプハ^{昭和五}虫ノ被害夥シク之カ原因不究分アリシ結果精品上流ナラス、隨道用品トシテ市場ニ出スコトヲ見合セリ。^{昭和五}本年度ノ結果ニ鑑ミ右取除法ニハ概力意ヲ用ヒツツアルヲ以テ、^{昭和五}本年度ハ相當改良ヲ市場へ供給シ得ルモノト預想セラル。

BII

尙本園ニ於テハ忽布ノ精カヲ絞カサル範圍ニ於テ大豆、白豆、馬鈴薯六根等澁根ナル蔬菜ヲ同作シ、收益ノ増大ヲ計リ居レリ。茲^{昭和五}爲稻葉豐城立案ニ係ル本園三十五町歩來年度收支預算ヲ見ルニ左ノ如シ。

▲支出

俸給
 邦人技師者一名、中國人技師者二名ニ對スル給與及中國人農夫二十名ニ對スル自五月至十一月使用料@月額十一圓

勞務費 (臨時者力一千名一日六十錢) 九六八圓

旅費 四三〇圓

通信費 二〇〇圓

壓搾器消却費 (二臺分) 五三三圓

忽布立材支柱 (一萬六千本分) 七、一一一圓

BII

E-1842

88

本園ノ地租公課等ハ全部馬場農園之ヲ負擔シ收益ヲ折半スル契約ナルモ
 資金ノ大半ハ邦人側ノ支出ニ係リ之カ償却ノ爲メ收益減減セラルルハ
 莫レス、全然一個人ノ資力ニヨリ經營セハ前記預算ヨリ收益増大スルコ
 ト討テ俟タス。

三、一面坂忽布農場概況
 本農場ハ濱口由次郎個人ノ經營ニ係リ、東支線道東部線一面坂特別區
 ニ在リ、北緯四五度五分、東經一二八度五分ニ位シ、海拔二一八米ニシテ、土
 質ハ松花江支流揚子河ノ沖積ニヨリ、第四層層ニシテ、植質壤土ナリ。農
 ヲ合ム一帯ノ平均ハ三方ニ山ヲ繞ラン、西北方ノミ樹密ス、同場ハ地勢不
 坦ニシテ、東側部ノミ傾斜ニ、其平均勾配三百分ノ一以下ナ
 リ。當場ハ東省特別區地政管理局ノ管轄地ニ屬シ、同局ヘ討シテ、所管ニ

BII

88
88
川

88

雑資	一八〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
燃料	七〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
電力	四〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
固定資本利子	五〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
建物償却費	四〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
備品償却費	六〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
包製費	九〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
肥料	一七五〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
計	二〇、三六七	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
全収入	四五、〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
乾花収入	四萬五千「ポンド」@ 一圓	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
間作収入	三、四〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
計	四八、四〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
損益	二八、〇三二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
益	五〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

BII

板

E-1842



84

付年額哈大洋二百元ノ借地料ヲ納付ス、本場ノ事業資金ハ試作時滿額ヨリ産業助成金トシテ數千圓ノ交附ヲ受ケ、且技行上常ニ指導ヲ受ケタルカ、試作完結シ企業トシテ經營スルノ時機ニ到ラセラルヲ以テ、奉天糖業公司ヨリ致千圓ノ事業資金ヲ借入レ、之カ元利金ハ五年間ニ償還ノ期定ニシテ、事業經營上ノ監督ハ引續キ滿鐵哈爾濱事務所ニ於テ爲シツクアリ、尙企業開始ニ當リ滿鐵ヨリ狹邊式電力水壓壓搾機一臺ノ無料貸具ヲ受ケ居レリ、本園ニ栽培スル忽布品種ハ、

早生種 札幌十號種 ザイツ種
 中生種 同 四號種 ハラタウ種
 晩生種 同 五號種 札幌六號種

等ニシテ、^{昭和五}六年度ハ乾花五、〇〇〇一ポンド^ハ收穫アリ、六年當地方麥

川

85

酒會社へ納入サレタルモ、現在尙在庫品アリ、^{昭和五}六年度ハ特ニ北米其自世界的ニ因作ナリシ爲平均六通渡盛園以上ニテ賣却シ得ル見込ナリト云フ。尙昭和六年度以降ハ新次植付面積ヲ擴張シ、年額乾花二〇、〇〇〇對度以上生産ノ見込ニテ、特等高級品ハ日本内地ニ、中等品以下ハ地方ニ於テ販賣ノ計畫ナリト。

参考ノ^後昭和二年度本園及狹邊産忽布ヲ「キリンビール」會社ニテ分析セル結果ヲ見ルニ左ノ如シ。

種別	水分量	灰分量	樹脂質 總量	苦味樹 脂質量	單仁量
一面坡産	10.13	2.39	1.537	1.075	4.24
狹邊産(A)	8.93	2.20	1.386	0.910	3.14
同(B)	8.41	1.933	1.443	0.60	3.19

川

E-1842

86

同 雜穀 (C) 八八一 六一四 一三三〇 八〇一〇 三〇〇七
 同 (D) 六四三 六八二 一四二三 八三三〇 四〇一六

本表ニ依レハ本分ノ脱田ニ遺積ノ結アルモ、其後年々調製法參考究サレ
 居リ、現在ハ外國品ニ比シ遜色ナシト云ハル。

積道河子忽布長持 粘泥ロロ

本場亦邦人石持隆次ノ何人經營ニ係リ、其支線道東部積道河子特別
 区内ニ在リ、北緯四四度四分八分、東經一二九度〇六分ニ位シ、海拔四二七米
 六米ニシテ積道河ニ添フ溪谷ノ首領ヲ占メ、壤質砂土及粘質壤土ヨリ成
 ル地勢ハ北側ニ山ヲ背ヒ包ノ三方ニ約一乃至三村ヲ擁レ自ニ田マレニ
 盆地ヲ形成シ東南方ニ向ヒ二百分ノ一ノ勾配ヲ有ス。

本場ノ栽培品種ハ、

87

早生種 札幌十穀
 中生種 札幌四穀
 晩生種 札幌五穀

ニシテ本年夏ノ植付面積ハ僅ク一町五段方ニ止マリタルモ昭和六年
 度五町方ニ増シ、自後着々増大メシムル豫定ナリト本年夏製品ハ悉ク積
 道河子麥酒會社へ平均單位金圓ヲ以テ納入セリト云フ。本場ハ耕作面
 積尙尠少ニシテ企業トシテ助成ノ域ニ達セサルヲ以テ、滿鐵ニ於テハ未
 タ物質的援助ヲ爲サズ、單ニ技術上ノ指導ヲナスノミ。

五 鮮支人方面粘泥ロロ

鮮人ハ現在一面坡ニ約十名積道河子ニ五六名栽培スルモノアルモ何
 レモ規模極テ小ニシテ單ニ自家用ハパン製造原料乃至洗浴用トシテ

E-1842

286

左産スルニ過キス其積多貴ニ生産スルモノニ於テモ本邦人側へ買込ヲ
依頼スル程辰ニシテ未タ企業前栽培ヲ爲スモノナシ。平藤人側ニ在リテ
ハ前通管地忽布園關係ノ高息殿ヲ除キ全ク本品ヲ栽培經營スル者無ク
單ニ邦人トノ雇傭關係ニ止マル狀況ナリ。

BII

并

E-1842

0085